

宇治市の小中一貫教育 12 年間の検証を踏まえた

宇治市の小中一貫教育 今後の展望ポイント（案）

宇治市小中一貫教育 7つの目標

- ① 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成する。
- ② 9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導により、児童生徒の個性の伸長と社会的な資質や能力・態度を育成する。
- ③ 9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動により、自分の住む地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成する。
- ④ 児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流により、豊かな人間性や社会性を育成する。
- ⑤ 教職員が児童生徒一人ひとりへの理解を深めることにより、個に応じた指導や支援を充実する。
- ⑥ 小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図る。
- ⑦ 中学校区を単位とした地域・保護者同士の連携を深めることにより、学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりを推進する。

1 「学力に関わって」

★「主体的・対話的で深い学び」と「インクルーシブ教育の理念の実現」の一体的な推進

- (1) 系統的・継続的な学習指導（目標①）
- (2) 宇治学（目標③）

2 「生徒指導に関わって」

★保幼小連携から小中一貫教育で培う「育ちと学びの連続性」による人づくり

- (3) 系統的・継続的な生徒指導と児童生徒理解（目標②）（目標⑤）
- (4) 児童生徒交流（目標④）

3 「連携に関わって」

★家庭・学校・地域が協働した取組の推進

- (5) 家庭・学校・地域が一体となった教育環境（目標⑦）（目標④）
- (6) 教職員連携（目標⑥）

1 「学力に関わって」

(1) 系統的・継続的な学習指導 今後の展望

- ◆ 多様な個性や特性、背景を有する子どもが多くなっている実態を踏まえた Diversity (ダイバーシティ/多様性)、 Equity (エクイティ/公平性)、 Inclusion (インクルージョン/受容) の考え方が重要
- ◆ インクルーシブ教育の視点で、全ての子どもたちにとって学びやすい学習者主体の「学びのデザイン」を再構築
「主体的・対話的で深い学び」と「インクルーシブ教育の理念の実現」を一体的に推進
- ◆ 各種学力・学習状況調査（全国・府・市）等の学力調査の分析力を高め、児童生徒の実態把握につなげるとともに、取組方針やビジョンの共有
- ◆ 各中学校ブロック配置のラーニングコーディネーターを一層活用し、各中学校ブロックの効果的な実践事例を他ブロックに活かす交流活動の充実や、より実践的な資質能力の育成をめざした研修の質の向上を進める。
- ◆ 架け橋期の共通プログラムの作成等により、就学前の育ちや学びを活かして、小学校の学びへのなめらかなつながりを進め、乳幼児教育・保育支援センターの機能を活かし、小中一貫教育との連続した学びへつなげる。

(2) 宇治学 今後の展望

- ◆ 児童生徒の探究的に学ぶ力の確実な獲得につながるよう「宇治学」を推進
課題解決型の学習をとおして、教科学習とも連動した「宇治学」における児童生徒の「主体的な学び」づくり
- ◆ 宇治学副読本を効果的に活用した学習活動の質の向上
- ◆ 「情報の整理・分析」「まとめ・発表」時のICTの効果的な活用
- ◆ 地域社会の一員としての自覚を持って「ふるさと宇治」を愛し、よりよい宇治を築こうとする子どもたちの自主的、実践的な態度の育成

2 「生徒指導に関わって」

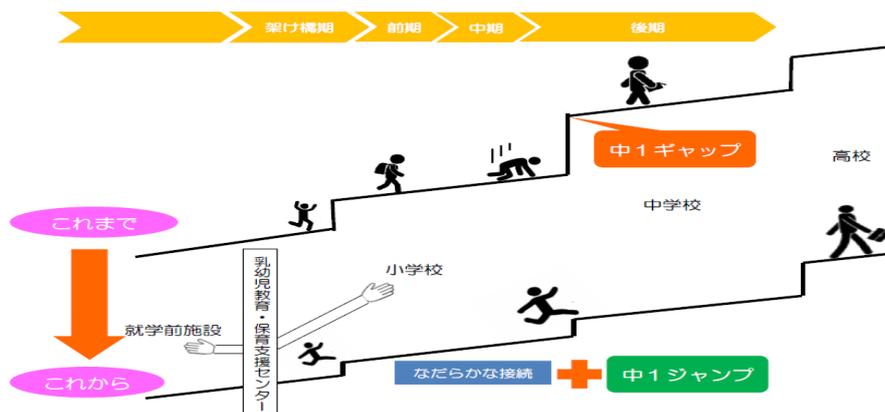
(3) 系統的・継続的な生徒指導と児童生徒理解 今後の展望

- ◆ 5歳児と小学1年を「架け橋期」と位置付けて、乳幼児期から中学卒業までの目指すべき姿を共有
乳幼児教育・保育支援センターと協働し、保幼小連携から小中一貫教育で培う「育ちと学びの連続性」による人づくりを推進する。
- ◆ 多様化する児童生徒の背景にある要因（ヤングケアラー・貧困・発達課題等）を多角的・多面的に把握しアセスメント
- ◆ 学習指導と一体化させた生徒指導
- ◆ 前期・中期・後期のステージにおける目標やアプローチの仕方、それぞれのステージで身に付けるべき社会性を再確認
- ◆ 「『中1ギャップ』から『中1ジャンプ』へ」としての視点を持ち、節目として位置づけられる取組や、変化を前向きに捉えられるような取組

(4) 児童生徒交流 今後の展望

- ◆ ブロック全体で取組の目的や必要性を熟議し取組を精査
ビジョンを共有し、継続できる取組にしていくことで、形骸化を防ぐ
- ◆ オンラインも活用しながら、実際に交流する場面を工夫
- ◆ 分散進学が発生する学校の解消にあたっては通学の安全、地域コミュニティ等に配慮した上で、手法や時期を検討

保幼小中連携による「なだらかな接続」+『中1ジャンプ』

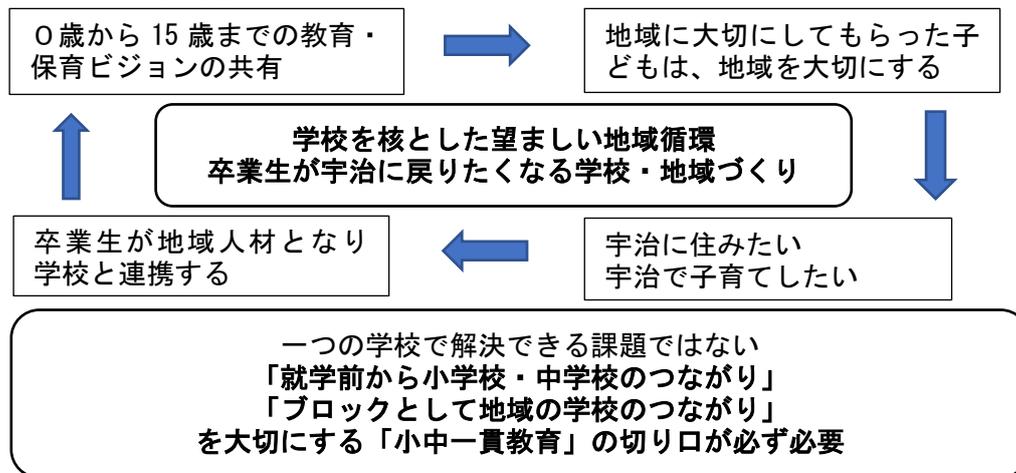


3 「連携に関わって」

(5) 家庭・学校・地域が一体となった教育環境 今後の展望

- ◆ 『コミュニティ・スクール』による中学校ブロックを意識した小中連携
- ◆ CSコーディネーターが中学校ブロックの取組を共に推進
- ◆ 学校運営協議会等を活用し、保護者・地域とともに目的や必要性を熟議し取組を精査
- ◆ 保護者や地域の方の主体的かつ気軽な参画
- ◆ win-win(お互いにプラス)の視点を大切に
- ◆ 保護者や地域の役割や責任を明確にしつつ、ゆるやかにつながる関係を大切に
- ◆ 「学校だより」だけではない情報発信のツールを充実。受け手にとって意義のある情報発信
- ◆ 学校を核として、教育委員会、福祉やまちづくり、共生社会、安全、防災といった、行政の多様な部局が連携・役割分担し、家庭・学校・地域が一体となった教育環境づくり

学校を核とした地域づくりが重要



(6) 教職員連携 今後の展望

- ◆ 「児童生徒の実態分析・把握・共有」「取組方針やビジョンの共有」
「課題を焦点化した着実な対策の実施」等、連携の質を高める
- ◆ 児童生徒理解を一層すすめる、様々な事象の背景にある要因を多角的・多面的に把握し、適切な支援につなげる
- ◆ コーディネーター同士の好事例を他ブロックに活かす交流活動の充実
- ◆ コーディネーターの実践的な資質能力の育成をめざした研修
- ◆ 宇治市乳幼児教育・保育支援センターとの協働による就学前児童との交流活動の実施
- ◆ 就学前施設との連携強化